



今年度の研究について

〈研究主題〉

子どもの道徳的実践力を高める道徳教育の充実
～道徳科を要とした取組を通して～(3年次)

〈主題設定の理由〉

現在、子どもたちを取り巻く社会の状況、環境が日を追うごとに変化しています。科学技術の発展によって社会は高度情報化され、一人一人が携帯電話、スマートフォンを保有する時代となりつつあります。情報を取得する手段が多様化し、SNS を利用したり、ブラウザを閲覧したりすることで、誰もがいつでもどこでも検索できるようになり、便利になってきました。

その反面、子どもたち同士の関係性が希薄になってきており、友だちとどのようにかかわっていけばよいのか分からないと悩みを抱えていたり、周囲が気になってしまい自分のしたいことを見失っていたりするなど、心にたくさんのストレスを抱えて過ごしています。

これらの問題を解決するためには、児童生徒一人一人が多様な価値観の存在を認めつつ、自ら何を感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質や能力(道徳的実践力)を備えることがこれまで以上に大事になってきています。こうした資質や能力の育成に向けて、道徳教育が大切であることは明らかです。

本教育研究所では、平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で道徳科が完全実施されることから、教科化に向けて「道徳教育の在り方」に関する研究に視点を当て、研究主題を設定しました。



〈平成27年度の取組〉

◎理論研究の基礎・基本

- ・道徳教育の目標
- ・道徳教育の推進(全体計画・各学年の指導計画・別葉)
- ・道徳科の授業づくり

〈平成28年度の取組〉

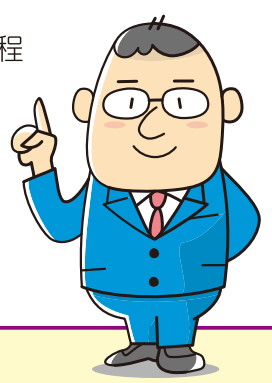
◎理論研究に基づく実践研究

- ・理論に基づく道徳科授業実践の検証
- ・学習過程の工夫
- ・多様な指導過程
- ・成果を上げている道徳教育実践の収集
- ・評価の在り方

〈平成29年度の取組〉

◎理論研究のまとめ

- ・道徳教育全体に関わる要点の整理
- ・内容項目ごとの指導事例
- ・道徳科における評価の在り方
- ・研究のまとめ



教育理論に関する研究の紀要として発行(2月末予定)

所報 いぶり

胆振教育研究所

平成29年10月27日 発行

第4号



今年度の 研究について

胆振管内の小中学校を対象に、各校における「カリキュラム・マネジメント」の取組について、アンケート調査を実施（7月）



考察を加え、調査課題研究の紀要として発行（2月末予定）



アンケートの集計結果から、管内の学校における「カリキュラム・マネジメント」の取組の状況や課題の明確化

研究委託校・実践校の紹介

豊浦町立礼文華小学校

「確かな読み」を身に付け、
自分の考えをもつ子どもの育成

～個に応じた指導の
充実を図る読むことの
領域の指導を通して～

公開研究会

11月22日(水)



1年 国語科「おおきなかぶ」

一人の学級のため、人形を使いながら登場人物になりきって気持ちを想像する活動

本校では、『「確かな読み」を身に付け、自分の考えをもつ子どもの育成』を目指して、課題・まとめの明確化、有効な振り返り、単元及び本時の活動を示す「学びの地図」「学びのらしんばん」の提示、思考の流れがわかる板書・ノート指導（礼小スタイル）、ICTの効果的な活用、全校で領域を統一した家庭学習などの取組を進めています。

また、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業や、複式授業における間接指導の充実など、個に応じた適切な指導の工夫を行い、小規模校の特性を生かした多様な指導方法・授業構築について研究を進めています。



3年 国語科「里山は未来の風景」

ICTを活用し、意欲の向上や効果的な振り返り、情報の共有化を図る



安平町立早来小学校

豊かな心を育む
道徳教育の推進

～「道徳の時間」における
評価方法の工夫・改善～

公開研究会

11月22日(水)

本校では、研究主題を「豊かな心を育む道徳教育の推進」とし、道徳科の実施に向けて準備を進めています。

1年次である昨年度は、『「道徳の時間」の指導の改善・充実を通して』を副題として、1時間の授業の基本的な指導過程を検討し、授業改善を進めてきました。

2年次である今年度は、『「道徳の時間」における評価方法の工夫・改善』を副題とし、ポート・フォリオ評価、自己評価、TTによる評価など道徳科の評価方法について学びを深めています。11月22日には公開研究会を予定しています。



6年 道徳科 相手の立場に立って「夏の日のこと」
登場人物の心情について交流している様子



3年 道徳科 相手の思いやり親切に「どうしよう」
登場人物へのアドバイスの言葉を考えている様子



白老町立白老小学校

進んで学び、
学んだことを生かす子どもの育成

～算数科・自立活動の
授業作りを通して～

公開研究会

次年度開催予定

本校は、3年計画で算数科の研究に取り組んでおり、今年度が2年次となります。全校統一の指導方法である『白小スタイル』を定着させ、問題解決型的な探求型の学習過程に沿って授業実践をしています。児童が課題に向かって主体的に取り組むようになっていたり、自分の考えをもち、他者の考えと比較することで学びを深めたりできるよう日々授業改善に努めています。

次年度には、開校140周年記念の公開研究会を予定しているので、さらに研究を深めてまいりたいと考えています。



4年 算数科「垂直・平行と四角形」
自己解決した考えを交流している場面



6年 算数科「角柱と円柱の体積」
体積の求め方を説明している場面

豊浦町立大岸小学校

自己と向き合い、他者と関わり合いながら
学びを深める児童の育成

～「考え、議論する道徳科」
の実践を通して～

公開研究会
次年度開催予定



4年 道徳科「ヌチヌグスージ」
自己をふり返っているところ



6年 道徳科「感動したこと、それがぼくの作品」
自己をふり返っているところ



厚真町立厚真中学校

豊かな心を持ち、
よりよい生き方を求める生徒の育成

～深く考え、議論する
道徳教育を通して～

公開研究会
次年度開催予定



全校道徳「どうすればいじめを防げただろうか…」
いじめ問題について縦割り班で話し合う活動

本校は研究主題を、『豊かな心を持ち、よりよい生き方を求める生徒の育成 ～深く考え、議論する道徳授業を通して～』と設定し、今年度からの3年計画で道徳に関する研修を進めています。

1年次の今年度は、厚真中の道徳を「Set up」することを目標とし、理論研修により、「特別の教科 道徳」についての理解を深め、教科化に向けた準備を進めています。

また、授業実践も行い、授業力の向上にも力を入れています。生徒数が少ないことのメリットを生かし、「いじめ」をテーマとした縦割りでの活動する全校道徳にも取り組んでいます。



2年 道徳科「言葉の向こうに」
ネットモラルについて小グループで話し合う活動

平成29年度

胆振教育振興事業について

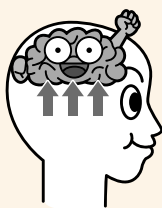
ホンマでっか!? TV
(フジテレビ)
所さん!大変ですよ (NHK) etc.
多数、テレビで活躍中!

開催日程 ▶ 平成29年11月6日(月) 18時30分～ 講演(予定)

開催場所 ▶ 登別市民会館 大ホール

講師 ▶ 人間性脳科学研究所 所長 澤口俊之氏

講演内容 ▶ 「夢をかなえる脳」



脳の発達は早く、8歳で成人のほぼ95%の重さになります。この時期に脳を発達させる教育を含めた適切な環境は最も重要であると言えます。

しかし、近年10代でもIQを上げることができ、高齢でも脳を大きくすることができるなど、どの年齢でも脳は鍛えることが可能だと分かってきています。

また、HQ(人間知性知能)という最重要な脳力を伸ばすことで、子どもたちの学力と社会力がアップし、かつ个性的で独創的な「人間らしい人間」に成長することができます。



問い合わせ先

登別市教育委員会 TEL (0143) 88-1129

平成29年度 胆振教育研究所

「冬季研修講座」のご案内

テーマ ▶ 「アイヌ文化講座」

日時 ▶ 平成30年1月10日(水) 13時30分～15時

会場 ▶ だて歴史の杜カルチャーセンター (2階:視聴覚室)

(〒052-0012 北海道伊達市松ヶ枝町34番地1)

対象 ▶ 小・中学校の教員 (30名程度)

内容 ▶ 学校教育におけるアイヌ文化に関する講座

～児童・生徒のアイヌ文化理解のために～



※詳細につきましては、各校に送付される要項をご覧ください。

問い合わせ先

担当 ▶ 胆振教育研究所 所員 牛島夏陽 (伊達市立東小学校)

〒052-0013 伊達市弄月町207番地1

TEL (0142) 23-2738

FAX (0142) 25-3886

MAIL natsuhi-ushijima@ed.city.date.hokkaido.jp

平成29年度第72回北海道教育研究所連盟研究発表大会(日高大会) 兼 第59回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

平成29年8月31日(木)・9月1日(金)、浦河総合文化会館を会場に北海道教育研究所連盟研究発表大会が開催され、本教育研究所から事務局長が参加しました。

教育上の課題について実践研究等の成果を基に研究協議を行い、学校教育の改善・充実に向けて加盟機関における学校支援機能の向上を図ることを目的に開催されました。

1日目 全体発表・記念講演

□ 全体発表

○発表者

平成29年度共同研究推進委員会委員長
日高教育研究所 平本 哲也 所員

○第16次共同研究主題(1年次)

「これからの時代の教員に求められる
資質・能力の向上に係る支援の在り方」
(北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会)

○研究内容

研究内容1

コンテンツによる支援

- 新たな教育課題に対応する研修コンテンツの提供
- 授業改善を促す資料の提供
- 校内研修の活性化を図る手法、実践事例の提供

研究内容2

ICTの活用による支援

- ~ビデオ通話ソフトウェアによる遠隔研修~
- 各教育研究所・研修センターから遠距離にある学校、小規模校、若手教員が多い学校等への支援
- 学校間の学び合いの場の設定

□ 記念講演

○演題 「北海道の現状を踏まえた

教員研修の在り方」

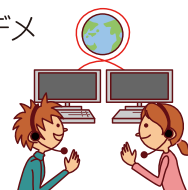
○講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部

総括研究官 藤原文雄氏

2日目 「Skype」の体験・分科会

□ 「Skype」の体験

道研の遠隔研修で活用している方法の一つであるビデオ通話ソフトウェア「Skype」を体験。江別市の道研と会場を Wi-Fi で結び、実演をしました。従来の遠隔システムに比べ、機材が手軽であったり、ほとんどの学校で使用できるというメリットと、音声のタイムラグがあり、話し方をゆっくりにしなければ聞こえづらいことやカメラのズームなどができないなどのデメリットがあることがわかりました。



□ 分科会

- ①テーマA…「言語活動の充実を意識した、思考力・判断力・表現力の育成を図る研究」
 - ②テーマB…「主体的・対話的で深い学びを目指した、協同的な学習の充実を図る研究」
- 部会は上記2つのテーマで参加。それぞれ研究発表の後にグループ協議を行い、課題や改善策を話し合いました。協議の時間が短い中、実践例などをもとに、意見を出し合いました。

〈共同研究推進委員会の取組〉

- 1 学校支援のために活用する研修コンテンツ等の収集・提供
- 2 北海道の地域性等に対応した教員研修の充実を図る
- 3 これからの時代の教員に求められる資質能力の向上に資する

※研究発表大会の詳細につきましては、北海道教育研究所連盟のホームページをご覧ください。

随時更新される予定です。(http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/index.html)

■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ http://www.iburi-education.jp/
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館カント・レラ2階

■発行者 安宅錦也

■印刷所 (有)村上印刷 伊達市錦町95-1 TEL0142-23-2625 E-mail murakamiprinting@amber.plala.or.jp